

千葉県地震概況（平成 30 年 6 月）

【震央分布図】

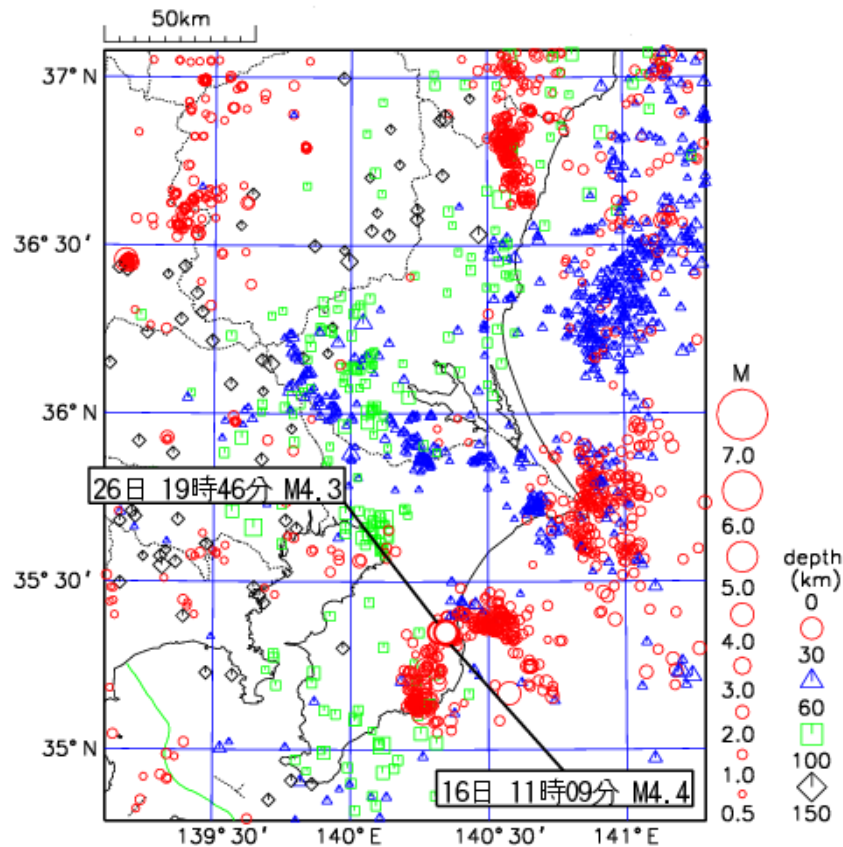


図1 震央分布図（6月1日から6月30日）

- ・ Mはマグニチュードで0.5以上、深さは150kmまでの地震を示しています。
- ・ 図中の日時・Mは、県内震度観測点で震度4以上を観測した地震です。

本資料は、国立研究開発法人防災科学技術研究所、北海道大学、弘前大学、東北大学、東京大学、名古屋大学、京都大学、高知大学、九州大学、鹿児島大学、国立研究開発法人産業技術総合研究所、国土地理院、国立研究開発法人海洋研究開発機構、公益財団法人地震予知総合研究振興会、青森県、東京都、静岡県、神奈川県温泉地学研究所及び気象庁のデータを用いて作成しています。

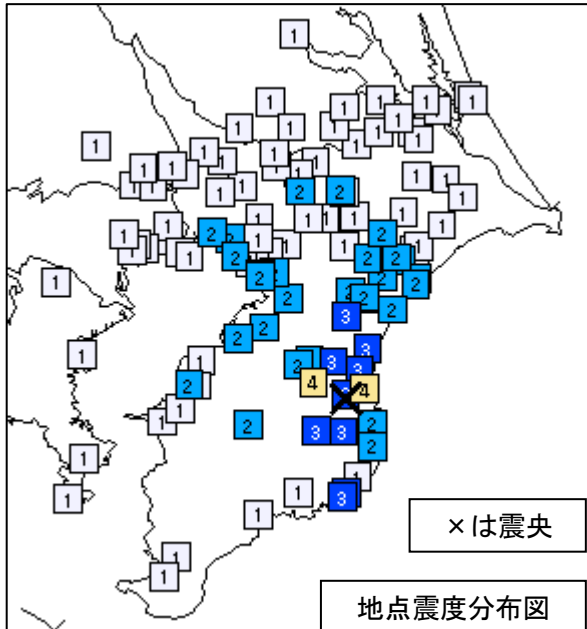
また、2016年熊本地震合同観測グループのオンライン臨時観測点（河原、熊野座）、米国大学間地震学研究連合（IRIS）の観測点（台北、玉峰、寧安橋、玉里、台東）のデータを用いて作成しています。

- ・ 本資料中で使用している地図の作成に当たっては、国土地理院長の承認を得て、同院発行の『数値地図25000（行政界・海岸線）』を使用しています（承認番号：平29情使、第798号）。
- ・ データについては精査により、後日修正することがあります。

【地震活動概況】

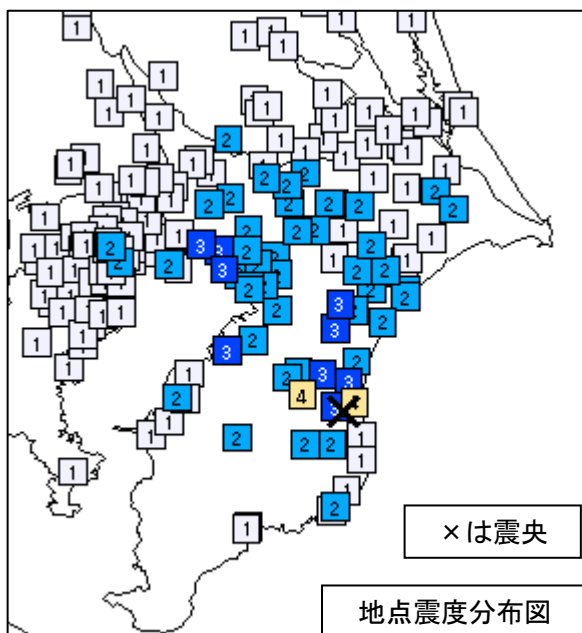
今期間の県内の最大震度は4でした。

今期間に県内で震度1以上を観測した地震は35回でした。その内、県内で震度4以上を観測した地震は以下の2回でした。



16日11時09分千葉県北東部の地震により、一宮町、長南町で震度4を観測したほか、千葉県の広い範囲で震度3~1を観測しました。

発震機構は北北西-南南東方向に圧力軸を持つ逆断層型です。



26日19時46分千葉県南部の地震により、一宮町、長南町で震度4を観測したほか、千葉県の広い範囲で震度3~1を観測しました。

発震機構は北北西-南南東方向に圧力軸を持つ逆断層型です。

今回の地震の震源付近では、6月に入ってからフィリピン海プレートと陸のプレートの境界で短期的ゆっくりすべりが発生しており、今回の地震活動は短期的ゆっくりすべりに伴って発生した可能性があります。最近では、1996年、2002年、2007年、2011年、2014年にも、短期的ゆっくりすべりに伴ったまとまった地震活動が発生しています。

最大規模の地震は2007年8月16日に発生したM5.3の地震で最大震度4を観測しました。

【発震機構の説明】 気象庁HP

<http://www.data.ima.go.jp/svd/egev/data/mech/kaisetu/mechkaisetu.html>

【県内で震度 1 以上を観測した地震のリスト】

地震 No.	地震の発生日時	震央地名	緯度	経度	深さ	M	県内最大震度
1	2018/06/02 15:04	埼玉県南部	36° 04.2' N	139° 47.0' E	46km	M3.6	1
2	2018/06/03 02:20	千葉県北西部	35° 38.4' N	140° 07.5' E	70km	M3.8	2
3	2018/06/03 19:33	千葉県東方沖	35° 23.6' N	140° 29.1' E	27km	M2.7	1
4	2018/06/06 15:07	千葉県北西部	35° 52.8' N	140° 00.0' E	50km	M3.5	1
5	2018/06/07 14:58	千葉県北西部	35° 51.6' N	140° 15.7' E	44km	M3.6	1
6	2018/06/07 18:37	千葉県北西部	35° 51.6' N	140° 16.0' E	44km	M3.0	1
7	2018/06/07 21:18	茨城県南部	35° 52.0' N	140° 38.3' E	52km	M4.2	1
8	2018/06/12 05:09	千葉県東方沖	35° 10.0' N	140° 34.5' E	17km	M4.9	3
9	2018/06/14 07:14	千葉県北西部	35° 39.4' N	140° 05.4' E	67km	M3.9	2
10	2018/06/14 10:39	千葉県南部	35° 11.9' N	140° 19.0' E	11km	M3.2	2
11	2018/06/14 12:07	千葉県南部	35° 08.9' N	140° 17.1' E	12km	M3.0	2
12	2018/06/14 17:49	千葉県東方沖	35° 23.0' N	140° 33.5' E	27km	M3.2	1
13	2018/06/14 19:04	千葉県南部	35° 14.3' N	140° 16.5' E	13km	M4.0	3
14	2018/06/14 19:31	千葉県北東部	35° 21.4' N	140° 19.9' E	26km	M2.4	1
15	2018/06/16 11:09	千葉県北東部	35° 21.0' N	140° 19.4' E	26km	M4.4	4
16	2018/06/16 11:16	千葉県南部	35° 20.8' N	140° 19.4' E	25km	M3.2	2
17	2018/06/16 11:22	千葉県南部	35° 20.8' N	140° 19.8' E	26km	M4.2	3
18	2018/06/16 11:50	千葉県南部	35° 20.4' N	140° 20.1' E	25km	M3.2	2
19	2018/06/16 14:34	千葉県東方沖	35° 21.9' N	140° 29.0' E	27km	M2.8	1
20	2018/06/16 15:45	千葉県南部	35° 20.7' N	140° 20.0' E	25km	M2.8	2
21	2018/06/17 11:32	千葉県東方沖	35° 25.9' N	140° 27.2' E	31km	M2.7	1
22	2018/06/17 15:27	群馬県南部	36° 27.3' N	139° 10.3' E	14km	M4.6	3
23	2018/06/19 01:04	千葉県東方沖	35° 22.3' N	140° 28.9' E	27km	M2.7	1
24	2018/06/19 13:29	千葉県北西部	35° 41.1' N	140° 07.2' E	69km	M3.9	2
25	2018/06/21 04:41	千葉県東方沖	35° 22.3' N	140° 30.4' E	26km	M3.2	1
26	2018/06/21 15:53	千葉県南部	35° 07.9' N	140° 14.5' E	11km	M3.8	3
27	2018/06/21 19:18	千葉県南部	35° 07.9' N	140° 14.9' E	11km	M3.3	2
28	2018/06/25 22:32	千葉県北東部	35° 21.3' N	140° 20.7' E	25km	M2.4	1
29	2018/06/26 19:46	千葉県南部	35° 20.9' N	140° 20.7' E	26km	M4.3	4
30	2018/06/27 04:16	千葉県南部	35° 20.8' N	140° 20.2' E	25km	M4.1	3
31	2018/06/27 04:39	千葉県北東部	35° 21.0' N	140° 20.5' E	25km	M2.5	1
32	2018/06/27 06:47	千葉県南部	35° 20.1' N	140° 20.4' E	25km	M2.6	1
33	2018/06/27 07:59	千葉県南部	35° 19.8' N	140° 20.6' E	24km	M2.8	2
34	2018/06/28 02:58	千葉県東方沖	35° 22.1' N	140° 28.9' E	28km	M3.3	2
35	2018/06/29 14:05	千葉県南東沖	35° 06.5' N	140° 15.8' E	13km	M4.3	3

各地の震度については、気象庁 HP「震度データベース検索」をご利用ください。

<http://www.data.jma.go.jp/svd/eqdb/data/shindo/index.php>

本資料についての問い合わせ先 : 銚子地方気象台 電話 0479-23-7705

千葉県東方沖の地震活動について

千葉県東方沖では6月3日頃からややまとまった地震活動を観測し、その後も継続しています。これは、フィリピン海プレートと陸のプレートの境界におけるゆっくりすべり（スロースリップ）（一口メモ参照）に起因するものと考えられます。房総半島沖では数年おきに2ヶ月から3ヶ月程度継続する同様の地震活動が繰り返し発生しています。

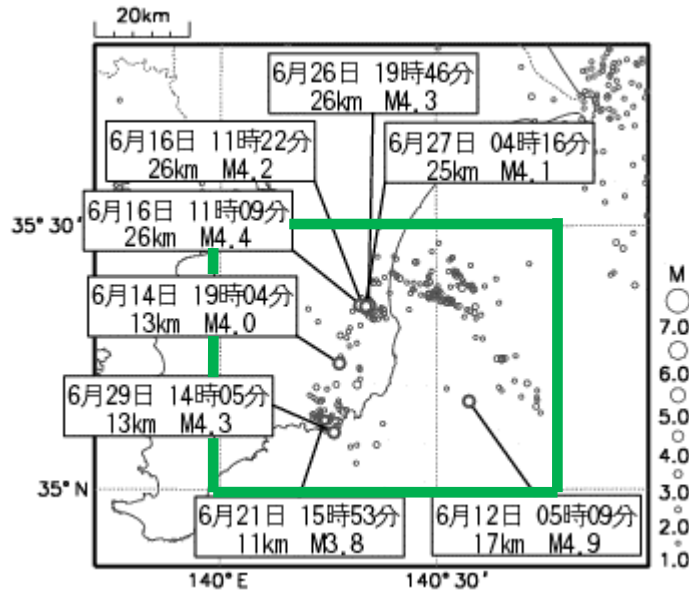


図2 震央分布図 (6月1日～6年30日)

- ・ Mは1.0以上、深さは0-40kmまでの地震を示しています。
- ・ 図中の吹き出しは、県内震度観測点で震度3以上を観測した地震です。

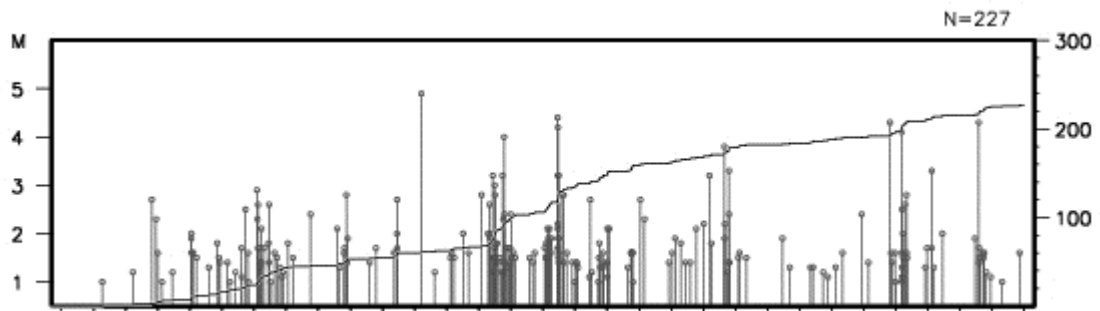


図3 図2の四角形領域内の地震活動経過及び回数積算図 (6月1日～6月30日)

M: マグニチュード

T: 時間

N: 領域内の地震の発生個数

横軸は日

左縦軸Mはマグニチュード、右縦は回数積算

縦棒のついた丸は地震発生時刻とマグニチュードの大きさを表す。

ゆっくりすべり（スロースリップ）とは

スロースリップ現象とは、プレート境界がゆっくりすべる現象で、ひずみ計、傾斜計、GNSS観測などによって地殻変動として検出されます。このスロースリップ自体では人が感じるような揺れを発生することはありません。ただし、スロースリップには、地震計で捉えられる種々の地震活動を伴う場合があります。

東海地方から四国、日向灘の南海トラフ領域にかけては、低周波地震（微動）活動を伴うことが知られています。この低周波地震（微動）のマグニチュード(M)は1程度より小さく、周期も長いという特徴があり、人が揺れを感じることはありません。一方、房総半島沖では低周波地震ではなく、通常地震が発生します。過去の活動では最大M5クラスの地震が発生し、最大震度5弱の揺れが観測されたことがあります。

ゆっくりすべりには水の関与が指摘されており、その様な水の多寡や摩擦状態の違いによって発生する地震現象に違いがあらわれるものと考えられています。

